

## ○議長（倉又 稔君）

日程第2、一般質問を行います。

12日に引き続き、通告順に発言を許します。

伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。〔13番 伊藤文博君登壇〕

## ○13番（伊藤文博君）

おはようございます。新政会、伊藤文博でございます。

本日は3点について質問いたします。建設的姿勢で質問いたしますので、質問の内容をよくご理解いただき、的確で前向きなご答弁をよろしくお願いいたします。

## 1、子育て支援について。

健康づくりセンターの計画変更により、併設する予定の「子育て支援センター」の建設を先送りにし、急遽、総合福祉会館「ふれあい」に同センターを設置し4月7日にオープンいたしました。その後の運営状況と今後の課題について伺います。

（1）急遽スタートした形の「子育て支援センター」ではありますが、従来より青海地域で行われているほかの子育て支援事業との連携について、現状と今後の課題はいかがでしょうか。

（2）従来より青海地域で社会福祉協議会が行っている子育て支援事業の評判が大変に良く、青海地域以外からの参加者も多いようです。そのような中で「子育て支援センター」がスタートして、これまでの事業の変更について危惧する声がありますが、今後の方針はいかがでしょうか。

## 2、行政改革、職員の意識改革について。

4月の人事異動で、総務課に行政改革内部監査担当課長補佐を配置しましたが、今後の進め方について伺います。

（1）行政改革について、担当課長補佐の配置でこれまでの進め方とどのよ、うに変わるのか伺います。

（2）内部監査について、内部監査要員の養成と任命、内部監査の範囲と頻度、手法など、どのように行うのでしょうか。

（3）昨年末からの一連の問題発生に続き、4月の選挙での選挙管理委員会の事務手続きにおいてのいくつかの事例により、職員の資質向上の必要性を感じているところであります。

市長は、職員の意識改革と資質向上の必要性についてどのように考えていますか。そして、

今後の進め方はいかがでしょうか。

### 3、世界ジオパーク認定と、その後の新幹線開通に向けた取り組みについて。

世界ジオパーク認定は、100年に一度のチャンスであります。また、新幹線駅の開設も同様に100年、200年に一度の変革のチャンスであり、この機会を逃すと転落の危機を迎えると言われております。言い換えると、新幹線開通・新幹線駅開設を前にして、世界ジオパーク認定という非常に有利な地域振興・変革のツールを手に入れることになります。このチャンスをなんとしても活かさなければなりません。

市長の取組姿勢について伺います。

(1) ジオパーク関連の事業推進体制は十分でしょうか。

(2) これから秋の認定までの間に整えなければならない環境（ハード、ソフト両面）には、どのようなものがあると考えていますか。

(3) 国、県との連携については、十分に協議が進んでいるでしょうか。

(4) 今後の環境整備（ハード、ソフト両面）、これに関するスケジュールはいかがでしょうか。

1回目の質問を終わります。

「議長」と呼ぶものあり]

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

伊藤議員のご質問にお答えいたします。1番目の子育て支援についての1点目と2点目を一括してお答えいたします。

子育て支援センターの役割は、就園前の子供や親同士が交流できる場を提供するとともに、育児相談や子育てサークルの支援を行うことでもあります。

既存の青海地域子育て支援事業を引き継ぎながら、今までの活動経過を踏まえた事業展開をしてまいりたいと考えております。

2番目の1点目、行政改革につきましては、行政事務の合理化と人件費の削減が主なものと考えております。

担当課長補佐を配置し、行革のスピード化を図り、平成21年度は使用料、補助金、施設管理など、行政事務の合理化について目標を定め、現在、財政健全化庁内委員会で見直し法案の策定を進めているところであります。

2点目の内部監査につきましては、職務を熟知しておる職員が内部監査を行うことが重要であ

ると考えております。今年度は総務課と企画財政課の職員が内部監査員となり、各課の業務内容や重要事項を事前に研修した上で、全課を対象に監査を実施する予定であります。

内部監査の方法は法令の遵守、事務処理のミス、また事務処理の防止の観点から、まず所属長が定期的に業務チェックリストによる確認を行い、内部監査員は随時担当課を回り、チェック体制が適切に行われているか、この確認を行うことといたしております。その結果を担当課に通知するとともに、不適切なものは改善を指示してまいりたいと思っております。

3点目の職員の意識改革と資質の向上の必要性につきましては、大変重要なことと認識をいたしております。これらの対応といたしまして、年度当初に職員の意識改革をテーマといたしまして研修を実施しており、今後も各種研修を通じて職員の意識改革と人材育成を進めてまいります。

3番目の1点目、推進体制につきましては、ジオパーク推進室2名のほかフォッサマグナミュージアムの学芸員3名と東京駐在員1名を加え、6人体制で世界ジオパーク認定に向けての調査と対応を進めております。

また、ジオパークの普及とジオパークを活用した振興策については、関係各課で構成をする庁内推進委員会で調査等を行いながら各課で役割分担をし、事業展開をする体制となっております。

2点目につきましては、受け入れ体制といたしまして、来訪者にわかりやすい情報を提供し、交通アクセス、ガイドの対応などがあります。

3点目の国、県との連携についてであります。国につきましては、関係する中央省庁や出先機関にジオパークの説明をする中、ジオパーク協議会に参加をいただき、事業の推進にご協力、またご理解をいただいております。

県につきましては、昨年度は東京駐在所や、また148号のジオパークPR看板などで、また今年度も音声ガイドやジオサイト誘導標識などで支援をいただいております。

4点目につきましては、現在、中堅職員による交流人口拡大プラン作成庁内委員会で取り組む事業、また時期などを調整、検討しているところであり、夏までにプランをまとめる予定であります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

1点目の子育て支援についてであります。

健康づくりセンターの計画変更によって、ふれあいに同センターを急遽設置したわけです。これについては、もともとある社会福祉協議会の本拠地に、子育て支援センターが割り込んだような形になっていますね。そこで、やはり関係する人たちのいろいろな意識の面も含めて、調整が必要だ

と思うんですね、整理をしていかなければいけない。

例えば社会福祉協議会に委託している事業と市直営事業の関連性、社会福祉協議会に委託している事業と市のセンター職員の関係、社会福祉協議会そのものとセンター職員の関連というようなことが、やっぱり整理されていないといけない。関連してる人だから、みんなそれを理解してなきやいけないと思うんですが、その辺の調整については十分なされていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

お答えいたします。

4月7日に移動したわけでございますので、若干まだ日数的なこともございましてあれでございますが、一応調整という形で仕事を進めております。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文陣君）

調整してるのは当然なんですけど、要するにその整理がきちんと関係者の間でついているかどうかですね。現場へ行って話を聞いてみますと、ちょっとあいまいなところが残ってるんじゃないかと思うんですよ。そうすると、何か心の中でひっかかるものがありながら、事業遂行していくということが起き得ると。現状が悪いと言ってるんじゃないですよ。もっとよくするためにどうするかという話をしてるんで、そういう意味で聞いてほしいんですけど。ちょっとその整理が十分じゃないと思うんですよ、もう一度。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

お答えします。

社会福祉協議会と支援センターの職員との間で何回も回数を重ねることによって、会話をすることによって、その意識の疎通というのができてくるというふうに考えております。議員さんが言わ

れるように、少しまだあれなのかもしれませんので、今後ともやるように指導をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

そのとおりだと思います。あいまいなところが残っているので、市の職員の側から見るとわかってるんですね、いろんなことが、当然なんですけど。ところがそれ以外の人たちについては、どうなかなあというようなことの中で進んでいる。言われるように事業推進していく中で、いろいろ整理がついていく部分もあると思いますが、初めから整理をつけられるものは、つけといた方がいいですよ。その中でいろいろと改革して、よくしていくということではなければならない。

子育て支援センターというのは、本来、本拠地としての機能と、事業実施主体としての機能があると思うんですよ。このみずから事業を行う部分と、委託している事業についてのかかわり合いについて、今の話をもうちょっと具体的に聞くんですが、しっかり整理されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

お答えいたします。

委託するものと、本来やるものとの区別ということで認識はしておりますので、やってるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

それじゃ私の聞いていることの繰り返しでしかなくて、要するに委託事業とみずから行う事業が別々にあって、その中で市の職員が例えば委託事業に対してどういう立場でかかわっていくのか。

委託も例えば子育て支援センターの職員の監督下で行われていくと、そこにもかかわっていくんですよということなのか、社会福祉協議会に委託したものには、もうかかわらないのか。そののと

この取り決めが、両者にちゃんと理解されているかどうかということ、まあ1つ例にとって聞いてるわけですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

社会福祉協議会に委託していることに対しましての指導という形で、センターの職員からやっていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

半分しか答えてないんですよ。だからそのことをお互いにちゃんと理解し合って、協力体制がしっかりとれてる。お互いのスタンス、立場をよく理解した中でやれているかということ、聞いてるわけです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

失礼しました、言葉が足りません。十分理解してやってると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

実際には、どうなんだろうかなというところはあると思うんですよ。さっきの話になりますけど、しっかり整理をつけていただきたいと、機会を持って。

青海子育て支援センターの職員配置については、当初2名という話を聞いてたんですけど、今現

在は1名ですよ。このとこの考え方はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

お答えいたします。

現在1名でございますが、2名体制でやってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

そういう答弁をされると、同じことを2回間かなきやいけない、毎回。2名にするんだったら、どういう状況を見て2名にする。いつからするのかと、そこまで答えてもらわないと、毎回同じことを2回間かなきやいけなくなる。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

すみません、言葉が足りません。

状況を見ながらということで、やらせていただきたいというふうに考えておりますが、2名体制でいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

また補足説明を僕がしなきやいけなくなる。だから事業実施等のバランスを見ていく。今はいろいろ試行錯誤でやってる中で、今後タイミングを見て2名体制にするということだと思っんですけど

ど、ぜひ早い時期にお願いしたいと思います。

社会福祉協議会で行っている「かるがも教室」、これは非常に好評で登録が親子で100組ぐらい。常時40組から50組の参加があるというんですが、この事業は今後どのように進めていくように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

お答えいたします。

「かるがも教室」につきましては、今後は子育て支援センターの方で対応してまいりたいと思っております。なお5月末日現在で、60組からの登録をいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

今の答弁は、子育て支援センターで行うというのは、場所のことを言ってるんですか。それとも運営主体のことを言ってるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

子育て支援センターが、運営主体になっていく予定でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）



そうすると社会福祉協議会で、過去15年にわたって運営してきた人たちがいますよね。この人たちとの関連はどうなるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

その方々を再雇用といいますか、やっていただきたいという考えでおります。その方々からやっていただくんですけど、運営主体は子育て支援センターでやってまいりたいということです。

○13番（伊藤文博君）

再雇用というのは。

○福祉事務所長（結城一也君）

再雇用といいますか、条件を支援と同じ条件でやっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

後で全体的な話も聞きますけど、ということは事業主体は糸魚川市の子育て支援センターに移していくけど、運営形態はそう変わらないで、今のいいところをそのまま生かしていきたいということですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

一応そういう考えでやっていきます。非常にいい制度でございますので、できましたら青海だけでなくも広げていくというのも、また前向きな考え方ではないかなというふうに考えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

ふれあい児童館というのが、須沢、八久保で行われております。これは週1回ずつなわけですけど、これも市民の方に非常に好評なんですね。この仕組みは、今後どうしていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

ふれあい児童館の事業につきましては、今後とも継続という考えでおりますが、今のところ子育て支援センターでやるかどうかというのも、もう少し検討の時間をいただきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

今のも事業主体をとということですよ、子育て支援センターとしての。次世代支援行動計画について、1つだけ聞きたいんですが、この中で子供の遊び場について触れていますよね。ほんの4行程度の記述なんですけど、これ地域別に子供の行動範囲とあわせて、屋外での子供の遊び場が確保されているかどうかという視点で整理されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

子供の遊び場についての充実ということで、地域ごとでの統計は、まだとってございません。お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

その視点で整理して整備の必要性をまず把握する。それから整備するかどうかという、総合計画なりに盛り込んでいく、実施計画に盛り込んでいくという作業をしないと、この点については、ここにうたわれているだけということになっちゃうんですけど、今後どのように考えていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長く結城一也君）

次世代育成行動計画につきましては、現在、第4回の策定委員会を終わらせていただいております。既にご承知のようご市民のニーズを調査させていただいて、それに対しまして委員さん方からの現状課題と、解決策ということでやっていただいております。

今後なんです、8月に第5回の策定委員会を開催いたしまして、そこで素案の協議をさせていただきたい。それから9月に第6回、再度計画の素案の協議をさせていただきまして、10月のパブリックコメントを経まして、11月に計画の最終案をつくりたいという考えでおります。この中で、先ほど言いました、地域での遊び場についても検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

しっかり現状を把握して、分析して取り組んでいただきたいと思います。

子育て支援センターと、今の社会福祉協議会に委託している事業のことで総括的に聞きますが、今後、今質問した範囲の中では、子育て支援センターの方で行っていく形に移行したいというふうな意向に聞こえたんですが、そういうことなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長く倉又 稔君）

結城福祉事務所長。〔福祉事務所長 結城一也君登壇〕

○福祉事務所長（結城一也君）

お答えいたします。

基本的には、子育て支援センターでの運営が一番でないかなというふうに考えております。

ただ、糸魚川地区にも2カ所、子育て支援センターがございます。そちらとの連携、それから幼保一元化等々を見据えた子供一貫教育の方針だとか、いろんなものがございます。そちらを見ながら先進地の視察等も、青海地域の子育て支援センターの方から参加していただきまして、市民の要望等も把握しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

事業統合といいますか、移管ですか、市の方へ戻すというか、ぜひ現場の声をしっかり聞いて、机上の判断にならないように、現場にいい形をつくっていただきたいというふうに考えております。

それでは、行政改革の方に移ります。

合併後の4年間の後半2年間は、特に行政改革の進捗に滞りが見られたという印象が強くて、市長や幹部も折に触れて、そのようなことを言っていますね。この原因というのは何だと分析されますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

原因の分析ということでございますが、基本的には合併後のそれぞれの地域で行われておりました料金との関係とか使用料、さらには施設の使用方法等々がそれぞれバラバラであったと。使用料金については無料のところもございますし、有料であったというところもございます。そういうところの部分が大きく前進しない、地域の皆さんのご理解が得られないということが大きな課題ということと、前進しなかった理由だというふうに分析をしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

料金、使用料の調整だけですか。今触れた話は、行革の中でその話だけですよね。全般的なほかの流れ、いろいろ項目が各課にわたってあるわけですけど、これなぜなのか。ちょっと答えになってないと思うんです。もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

料金ばかりではございませんが、補助金の問題とか、地域にはそれぞれ活動されてきた団体に対する補助金の問題とか祭りの問題、いろいろな問題がやっぱりそれぞれ不均衡であると。これを何とか行政改革の中では統一的なものにしたいという、1市1つのものにしたいという考え方でございますが、やはり地域の皆さんの今まで運営されてきた部分について、統一的なものについてのご理解が、なかなか得られない部分があるというところが、大きな課題というふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

行政改革全般の進捗管理について、どのように考えているんでしょうかね。後半2年が進まなかった原因というのは、多分、行革の特別委員会がなくなったからじゃないですか。チェック機関がなくなったんで、やはり業務が多岐にわたる中で、どうしても後回しになってきたという傾向は否めないと思うんですよ。となると、やっぱり進捗管理というのは非常に大事になってくる。これをどのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田総務企画部長。〔総務企画部長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

行政改革につきましては、毎年、毎年、実施計画をつくって、ローリングをしながらやってまいったというところでもあります。

確かに最近2年間といいますか、1、2年はそれぞれということでありまして、今回の平成21年度から23年度までの実施計画の中では、これまでやったものをきちんと、やったものはこういうふうにやりましたよということも加えまして、一応実施計画を作成させてもらったというところでもあります。

確かにここ1、2年、行革がなかなか進展しなかったというのも1つあります。先ほど特別委員会がなくなったからじゃないかという話もありましたけども、職員の側からしますとそうではないんですけども、やはり合併前の旧市町のやり方が違ってまして、その辺で統一するのになかなか難しいということでもあります。

特に使用料、手数料関係、それから各種団体の補助金の関係、それから施設の使用の実態、それから財政状況に応じた、いろんな対応をしなきゃならんわけですけども、そういった点で、やはり統一がなかなかできなかったというものであります。そういったことを踏まえまして、今回、庁舎内で財政健全化庁内委員会を設置をしまして、なおかつその中で部会なり作業班をつくって、鋭意進めたいということで考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

行政改革の担当課長補佐を任命したということで、当然、今までとやり方が変わっていきなげやいけないですね、その部分について、全体の動きは同じだとしても。これはどういうふうにご考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

当然のことながら担当課長補佐が配置されたわけでございますので、その担当課長補佐を中心に、今までは部局の中で、係の中で全体でやってきたわけでありましたが、今度は専門的に行革等を考えていくわけでありまして、財政健全化委員会の中の担当副委員長としてスピードアップをするつもりで担当補佐をやっておりますし、今後そういう意味での組織化は、図れるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

先ほど部長が言われた21年度からの実施計画の中に、今までやったものも含めて記述しているという話があったんですけど、進捗管理というのはそういうことじゃないんですよね。やっぱり今どういうふうに進んでるから、どういうふうに改革していかなきゃいけない、進めていかなきゃいけないということを日常的にやっていくのが進捗管理で、やらないでいて、その結果をまとめるのは進捗管理じゃないですよ。

日常的な進捗管理と、適切な機会を設けて改めて行うような進捗管理と、この両方が必要だと思われるんですよ。これはいかが考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

当然のことながら、やらないで最後にいつてその部分を出すというよりも、毎日、毎日業務の中で、当然進行状況を把握しながらやっていくというのが進捗管理でありまして、スケジュール管理だというふうに思っております。したがって、議員のおっしゃるとおりで毎日そういう業務をチェックしていくと、ないしは進行状況を把握していくというのが担当課長補佐の仕事でもありますし、行政改革の進捗管理のあり方だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

日常的な進捗管理は各部署で行っていく。適切な機会を設けてというのは、これは内部監査の項目に含めていくということも可能ですよね。そんなことで整理をして取り組んでいただきたいんですが、内部監査を行うには内部監査員の教育、それから対象の明確化、それから方法の確立なんていうことが必要になってくると思うんですよ。内部監査要員の教育について先ほど市長の答弁もあったんですが、実際に内部監査の方法を確立していかないと教育もできない。どっちが先かという話もあるんですけど、この辺についてのスケジュール的なものを含めた考え方というのは、どのような状態でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

内部監査のスケジュールということでございますが、基本的には6月末ぐらいまでには担当課長補佐から、まずは内部監査制度の要領案をつくっていただきまして、7月の初めの部課長会議で協議をして、8月後半から9月にかけて、可能な限りそれに基づいた実施をしてまいりたいというふうに考えております。

なお、先ほど市長が答弁申し上げたように、ことしは総務企画部の担当職員が内部監査要員になるという考え方でございますし、その職員については各課の重要な業務内容について研修した後に、内部監査に入ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

内部監査をするときに内部監査の対象について、その部署の業務の進め方に明確な取り決めがないと内部監査してみようがない、手順が明らかになってないと、どこの段階をどうチェックしているか、その責任はだれなのかということがわからないんですね。

ISOなんかのいいところは、その国際規格からの要求事項に対して、例えば市が取るとすれば、



市の業務の進め方を明確にしていって要求事項を満たしていく。内部監査では、それをチェックしていくということですね。そうでないとしたら、やっぱりどうしてもあいまいなところが出て、日常的にやってる仕事で取り決めたものがない。そういうことに対応していくには、各部署の不明確なところを明確にしていく必要があるということになるんですけど、先ほど各部署の業務についてよく勉強してという話だったんですけど、これ手順としてはもう1つ突っ込んだ手順が、面倒なことを省いてでいいんですけど、やらなきゃいかんと思うんですけどどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

まず、全課からことしの3月までに金課の業務内容を、行いますチェックリストを提出していただきました。それに基づいた内部監査の内容を各担当の課において、どれをチェックしていくかということも考えたいと思いますし、ISOの手法、手順も、この中に取り入れられるだけ取り入れていきたいという考え方でおります。

したがいまして、それらも含めて先ほどお答え申し上げたような職員の研修をして、各内部監査に入ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

内部監査方法の確立ということになりますと、この内部監査で庁内機能をどのようにしていきたいのかということが、一番最初に大切になってくるわけですよ。それによって手法も変わってくると思いますね。その辺の考え方というのはまとまっていますか。当然担当まで設定したと思うんですが、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

## ○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

まず、内部監査の内容でございますが、我々としては行政サービスの品質向上、要は行政への信頼の確保と、的確な住民ニーズの把握による行政運営コストの効率化というふうに考えております。この項目を重点に、内部監査を実施してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

## ○13番（伊藤文博君）

それは概念的にはそうだと思うんですね。ただ、やはりここに至るには、昨年来からのいろいろな問題点があると思うんですが、そのことを踏まえた答弁をお願いできますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長（倉又 稔君）

織田総務企画部長。〔総務企画部長 織田義夫君登壇〕

## ○総務企画部長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

内部監査の実際の目的といいますか、目標であります。やはり一番目は関係法令、条例、規則等に従って業務を遂行してるかどうか、その辺が、まず第1点目であります。

2点目につきましては、業務が効果的に実施されているかということでありまして、また、改善の余地がないのかということでありまして。

それからもう1つ、3つ目は、やはり職員の能力が発揮されているか。その点を踏まえまして、この3点を目的としまして、内部監査をまずやりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

## ○13番（伊藤文博君）

内部監査が形式的にならないためには、その意義が職員に浸透していなければならない。市長のトップダウン、強い指導力による職員のその点についての意識改革というのが必要だと思うんですけど、これはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

議員がおっしゃられるように内部監査は、まずミスの防止も含めた職員の意識改革というのが重要な項目だというふうに考えております。我々としては全庁的なミス防止、さらには職員の意識改革をこの内部監査でつなげていき、行政サービスの品質向上へ さらに職員の資質の向上につなげていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

内部監査の中で意識改革していきたいというのは、確かにあると思うんですよ。その前段ですね、一番最初に、なぜこういう仕組みをつくらなきやいけなかったのかということについて、職員の意識がしっかりそれを受け入れて、よりよい業務遂行していこう、そういうシステムをつくり上げようという意識がないと、やっぱり拒絶反応の中では、なかなかいい監査になっていかないだろうと、そのところですよ。

進めていく上では、当然また意識改革を進めていくことになると思うんだけど、前段の入り口のところが非常に大事だと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

議員がおっしゃられるとおりで、その部分が一番重要なところで、職員のまず意識が上がらないと、この内部監査は幾らやっても形式的になるんだろうというふうに思っております。その部分を、まず入り口でしっかり各部課長さんの方から職員の皆さんにも通知をいただく中で、この制度を少しでもよりよいものに築き上げていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

本間副市長。 隔り市長 本間政一君登壇〕

○副市長（本間政一君）

内部監査制度につきましては、伊藤議員から3月議会のときに、このような話が出たと思っております。この原因は昨年度のいろんな不祥事のことから発生をして、職員みずからがしっかりしなきやならないということで始まったんだと思っております。その後、市長からもいろんな機会を通じて、部課長会あるいは職員全体の中でも、これらの必要性を訴えてきてますので、そこが基本になると思ってます。それによって職員みずからが意識を変えて、自分の仕事を一生懸命やろうということにつながっていくんだらうと思ってます。

その1つのきっかけとして、内部監査制度というのを取り組んでいこうということで決めたわけでありますので、市長はこれまでもいろんな機会をとらえながら、職員には常々話をしてきてますので、職員もそのことは十分認識はしてると思ってますので、機会あるごとにそのことを徹底し、市民の信頼を得るような行政事務につな&デていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

先ほどもいいましたが、ISOがすぐれてる部分というのは、面倒なところもあるんですけど、すぐれてるのは国際規格な要求事項にこたえるために、業務の手順を明らかにするということです。

必要な部署だけISOを取るということもあるんですね。そういうことも考えていかなきやいけないんじゃないかと。そのぐらいの姿勢を見せなきやいけない部分もあるんじゃないかというふう考えるんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。 （市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えします。

確かに外部のいろんないいシステムというのは結構多くあるだらうと思っておりますし、特にI

S Oなんかは、すぐれた手法であると思つとるわけでありませぬ。しかし私は、まず、今、伊藤議員のご指摘の中にもありましたように、市民にやは理信頼される職員になっていただきたいというのが基本でございます。そういう中で、ただ外部からではなくて、私はみずからが、やはり自分たちの仕事に、職務に責任とプライドを持って当たっていただかなくてはいけません。そういうことをやはり全職員が認識をしてもらわなくては、仕事につながっていかないだろうということで、3月20日までに、自分たちの行っている仕事の一番ポイントをまず絞って挙げるという話をさせていただいて、それをベースにしながら、これは常にその人たちがずっとやるわけではございません。その職務というのは、また人が変わってもやっていかななくてはいけないことを挙げるということで挙げさせまして、それに対して今進めておるチェックをしていく体制を整えていきたいということで、まずはやはり自分たちの仕事にプライドを持って進めていく。一番自分たちの仕事をしているのは、みずからがやはり知ってるんだというところで、職員のやる気を出させていきたいということで、この仕事に取り組まさせていただきました。

そのようなことで、これは私はこれで決して終わったと思っておるわけではございません。いろんなまた機会を通じながら、またいろんなチェックをしながら、これを監視していかななくてはならないだろうと思うわけでありまして、そういう中で、まず職員のやる気、職員みずからのやはり考え方を1つに意思統一しなくてはいけないということで、取り組まさせていただきました。そのようなことで少し様子を見ながら、また対応していきたいと考えてる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

I S Oを取るに匹敵する仕組みをつくるという意気込みだというふうに考えます。ですから、そのことにこだわることはないんですが、ぜひいい仕組みをつくってほしいと思います。

通告書の中でちょっと触れましたが、選挙のときの問題もあって、だれでも間違いはします。しかし、そのレベルがいかに低いかという話は、課長にしてありますね。しかし、私は職員というのは基本的に優秀な方が多いと思っているんですよ。そしてまじめに仕事をしてる、このことは絶対否定をしません。それにもかかわらず、初歩的なミスが多い。これはなぜでしょうか、どのように分析されてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

## ○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

分析というところまでいっておりませんが、基本的には職員の勉強不足の部分があるんだろうというふうに思っておりますし、選挙の場合はなかなか、いろんなご質問等々いただきますので、職員も一生懸命本を見ながらお答えをしておりますが、やっぱりそこに至るまでの間にミスがあったというふうに感じております。

ただ、今後も含めてお問い合わせに即答ではなくて、わからない部分については時間をちょっといただいてご回答を申し上げるとか、よく調べてから申し上げる方法は今後考えていきたいと思っておりますし、また職員には指導してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

## ○13番（伊藤文博君）

先ほど市長が3月20日までに、それぞれの部署のポイントを絞って挙げなさいということで挙げてきて、その分は今後担当者がかわっても、同じようにやっていかなきゃいけない。それが現状ですよね。今言われたような勉強不足ということも含めて、初歩的なミスが生じないような仕組みをつくらなきゃいけない。

これには業務手順の確立と、それからチェックシステムの確立、そして職員の意識改革という、この3点セットで個人差を是正していくということが必要なんだと思うんですよ。今、内部監査が行われればチェックシステムの確立はされていくことになるんですね。問題は職員の意識改革と、それから業務手順の確立という、だれがやっても同じ手順でやっていくような手順が確立されているかという、これはチェックの対象になるわけですけど、この辺をやっぱり総合的に考えて整理していかないと、内部監査システムは有効に機能していかないとということになります。この点についてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長（倉又・稔君）

田鹿総務課長 〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

## ○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

当然、最初から100%のものは、なかなか難しいと思います。議員がいつもおっしゃられるようなPDCAを使いながら動いてみて、それでさらにチェックをして、さらに次のアクションを

起こすというやり方は今後もやっていながら内部監査制度、少しでも精度を高めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

まずは始めることが大切だというのはあるんですけど、一番最初のスタートは結構大事だと思うんですよね。そのスタートでつまづかないためにも、やはりある程度の準備は必要である。

内部監査の結果をどうフィードバックしていくか。要するに結果をどう生かしていくか、それぞれの現場で、また生かして、どう改善していくかということが非常に大事ですね。それにはやはり各部署が内部監査を重要だと受けとめて、そしてその結果を素直に受けとめ、改善策を講じていくということが必要になってくるわけですが、これについてももう一度、繰り返しになりますけど、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

当然内部監査で出てきたチェックの部分で、不都合な部分というのは出てまいると思います。それについては、当然、理事者にも上げながら、各担当部署にも改善の指示を、市長の指示も含めましてさせていただきたいというふうに思いますし、当然、そこからさらにまた出てくる部分についても同じような繰り返しで、少しずつ上げていきたいというふうな考え方でおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

そこで、それだけでなく、そのことを全庁的に水平展開していくという手段が必要になるんですよ、類似事例というのはたくさん出てくるんで。仕組みはこれからつくるんでね、あまり細かい話はあれなんですけど、外延としてやっぱりそのところは大事だと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田鹿総務課長。〔総務企画部次長総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務企画部次長総務課長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

当然、1つの課で出てきたものについて全庁的に、それが必要なものについては部課長会議も含めまして全課に情報は提供し、お互いに少しでもいい方向にいくようなやり方をしたいと思っておりますし、議員がおっしゃられるように水平展開といいますか、情報はできるだけ満遍なく出すような方法でいきたいと思っておりますし、その課だけの問題については、その課でとどめますが、全庁的に及ぶものについては、できるだけ情報は水平に出していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

水平展開には、いつでもだれでも見れると、その情報が。それが1つと、必ず決まった段階で全員にというか、要するに部課長でもいいんですけど、しっかりと浸透させる機会という、この2本立てがやっぱり必要だと思うんですね。ぜひいい仕組みをつくっていただきたいと思っております。

世界ジオパーク認定と新幹線開通の方にいきますが、4月の人事異動で、ジオパーク推進室の人員は変わらずでした。秋の認定に向けててこ入れが必要だというふうに我々議員も思っておりますし、市民の多くもそういう声が強いですね。人員不足により、いろいろ間に合わないことが出てきそうだというような危惧を抱いておるんですが、これは心配ないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

本間副市長。 隔り市長 本間政一君登壇〕

○副市長（本間政一君）

ジオパークにつきましたの世界認定が早まったというのは、先般からのほかの議員の中での説明も出てますが、やはりそこら辺の中で、いろんなことでまだ課題があるというふうに認識をしております。そんなことから職員の増強ということも、当然考えなきやならんと思っておりますが、3月時点の異動の中では国体の関係等が10月に終わりますので、それら以降の人員を、一部ほかのどこへ異



動できるのではないかという構想を持っておりましたが、認定が早まってくるということ、それからいろんなことで対応が追われているようなことでありますので、少し内部では検討しなげやならん時期かなということは内部で話はしていますので、そこら辺の事務量、あるいは今後やることの内容を見きわめて、対応を進めていきたいなというふうなことを思っております。

もう1点は、それぞれ各課からいろいろ連携をとって応援体制をとってきたわけですので、そこら辺も十分活用しながらやっていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

今後どのようにまた推進していくのか、よく見ていきたいと思っております、非常に期待しておりますので。事業推進のためには、めり張りのある行政推進が必要でありますよね。市の職員のジオパークについての理解度がどうであるかということなんですね。これからはすべての活動を可能な範囲でジオパークに結びつけていく。今、各課連携と言われましたけど、そのとおりで、すべてを結びつけていく意識が必要となります。そこに対する対応というのは、職員に対する対応ですね、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長（吉岡正史君）

お答えします。

私どもは今市長の方から関係各課を集めて、このジオパークについて共同で、私ども企画財政課のジオパーク室、あるいはフォッサマグナミュージアムと共同で仕事をするようにという、まず指示をいただきました。それで今まできたわけなんですけども、議員ご指摘のとおり、やや遅れぎみであるのかなというようなところはあります。

したがいまして、今途中からなんですけれども、今度は私ども企画財政課ジオパーク推進室とそれぞれの課が1対1で、具体的に何を進めていかなければならないかと。特に市民への周知、あるいは来たお客さんへの対応、それから国内外への宣伝。こういった点につきまして重点的に施策を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

またその分について、ちょっと後で質問することもあるかもしれませんが、事業を推進する上で、同じ方向を向いている仲間をつくっていくということは非常に大事なことです。仲間づくりというのは熱伝導ですよ、熱が伝わって仲間になっていく。熱源は多いほどいいわけですよ。糸魚川ジオパーク推進市民の会の会員の増員についてもそうだと思います。

先日の答弁では、いや、実動部隊なんで、形だけの人はっていうような話だったけど、これは違うと思いますよ。いろいろな動き方をしてくれる人が、それは実際にガイドとして動ける人もいれば、友達との間で話すときに、糸魚川ジオパークはすごいんだよということを宣伝してくれる、市外の人たちに。そういう人たちが非常に大事になってくると思うんですけど。これちょっと課長答弁、先日言われたのはちょっとぐあい悪い、あれでは。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長（吉岡正史君）

お答えします。

先日ちょっと、私、言葉が十分でなかったというふうに思ってます。いわゆる市民の会におきましては、実際に市民の方々が自主的にいろいろな活動をしていただいております。したがって、だれでもいいやという方向もあるんですけども、とにかく一緒になって協力してくれる方々をふやしていかなきゃならない。これをちょっとしっかりお伝えできなかったという点でまずさがあったことは、まことに申しわけなく思っておりますが、とにかく真剣にジオパークについて一生懸命やっていただける方を、多くふやしていきたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

よろしくをお願いします。

糸魚川市の推進室、それから市民の会、商工会議所、そういうものを含めたジオパーク協議会、そして学校教育の現場、この連携をとっていかないといけない。地域社会も含めてですね、やらな

きやいけないことがたくさんあるんですね。ぜひとも体制を早く、必要に応じて整えていただきたいというふうなことを思っています。

新幹線開通に向けた駅北まちづくりの件も含めて、これからの糸魚川市はジオパーク絡みで全体をよくして、個々の問題を解決していくという姿勢を浸透していく必要があるんでないかなと思うんですよ。6月に行われた空き店舗活用のジオパーク雁木横町という取り組みも、これは商工会議所の空き店舗活用部会の人たちが、その思想でジオパークと銘打って行われたわけです。市長がその意思を明確にして、関係団体や市民に協力を求める姿勢が必要で、当然それはあるんでしょうけど、それをいかに広げていくか、本当の意味で伝えていくか、形だけじゃなくて。これは非常に大事なことだと思うんですが、ここについての取り組みをお願いします。

〔「議長」 と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長（吉岡正史君）

お答えします。

今、議員がおっしゃられたとおり、私どももちろん市が中心になって宣伝だとか、あるいは案内板だとか、いろいろの設置はしていかなきゃならないですけども、いかに市民から盛り上げていただけるか。あるいは市役所以外の事業者、あるいはボランティア、そういった方々でないといけないものもあります。したがって、そういう人たちに参加していただくべく私どもは働きかけを強めて、それで民間さんの力を発揮していただくということが、大事であるというふうに思っていますので、私どもは今、議員さんが例に出されたようにいろいろな団体、あるいは協議会等へ働きかけを強めて、このジオパークをほかにない大事な大事な資源だと思っていますので、一生懸命取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」 と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

これは何回も言っていますが、認定後に観光客が訪れて何もないとレッテルを張られたら、これを解消するのに大変なことになりますね。今の時点で、24あるジオサイトのどこを認定までに整えて、最低でもここここはきちっと見てもらえるというコース設定みたいなものが必要だと思うんですね。

また、もうちょっと長期的に言うと、24のサイトを幾つかのブロックに分けて、順次、受け入

れ体制のできるブロックをふやしていく というようなこと。そしてリピーターを、来るたびに違うところを見てもらうというような整理が必要なんです。そのためには、やはり全体像を明らかにしていかなきゃいけない。ここが、ちょっと遅れとるんじゃないでしょうかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田総務企画部長。〔総務企画部長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

そういったことで、世界ジオパーク認定になってから、その後の取り組みということであります。それを想定をしまして、世界ジオパーク認定を想定した交流人口の拡大プランというのを、今現在、庁舎内の関係課でつくっております。それが今ちょうど策定の方が盛りでございます、夏までということ今つくってる最中でございます。

そういった中で、やはり24のジオサイトのうち幾つかを、全部ではなくてある一定のコースを決めましてその辺を回ると、ジオツアーをすとかそういうもので、またそれに対する交通アクセスの関係も含めまして、そういう検討を今してるということとであります。夏までにつくるということで今策定をしておりますので、もうしばらく待ってほしいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

ジオサイトの地元の地域振興団体といたしまして、いろんなものがあると思うんですが、この連携というのは進んでいるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田総務企画部長。〔総務企画部長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

ジオパークの協議会を窓口としまして、またそのメンバーを中心にしまして、各ジオサイトの地域とも連携をとってやっております。ただ、それぞれジオサイトによりまして、その辺は進捗し

ているところと、まだ進捗してないところが一応ございます。ただ、例えば小滝等につきましては非常に進捗状況がよくて、その辺については地域としっかりやってるという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

当然ジオサイトによって、そういう地域との連携の適正みたいなものがあると思うんですね。その方がいいとこと、そうじゃないとことあると思うんです。中心商店街や関連団体について、ジオパークをツールにした観光戦略ということについてはどうですか、連携について。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長（吉岡正史君）

先ほども申し上げましたように例えば商店街とかいうことになりましたと、これは商業者、あるいはその近隣の住民の方々、それから、そこを支援するボランティア、そういった形でまちづくりをしていかなきゃならないというところでもあります。

したがいまして、私どもこのジオパークという考え方を導入させていただくというような理解を、まず行政がそういった方々に普及、宣伝をしていくと。そういった中で、そういうまちづくりに関する人たちから理解をしていただいて、このジオパークというものをいかに取り入れていただくか。

例えばの例なんですけども、例えば今、能生地域でもって、ツチノコ探検隊というようなものを実施されております。そういったものを盛り上げる、あるいはヒントにしてあるお菓子屋さんでは、それに関するお菓子をつくったと。こういった取り組みをジオパークに関しても、やっぱり商店街の方々にも取り入れていただいて、新しい商品だとか、あるいは新しい持てなし方だとか、あるいは装飾だとかに取り入れていただいて、ジオパークのまちの商店街があると。今、例えば具体的に言いましたけども、そのような活動を広げていっていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

いや、そう思っるのはわかるんです。要するに、その連携がしっかりとれているかということを知りたいわけですよ。そこにもっていくための市としての働きかけは、十分でしょうかということを知りたいわけですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長（吉岡正史君）

今、商店街をお話をしましたけれども、今、駅北まちづくり実行委員会というのは、市と商店街の方々が一緒になって相談をしながら進めております。だから、そういう民間の人たちの力を引き出すという形で、具体的な計画書というのはまだないんですけれども、そのような形で民間の入りにジオパークというものを十分理解していただいて、それを民間の方々で言えば経済的、あるいは地域の方で言えば社会の教育だとか、あるいは道徳教育とえばおかしいですけども、地域を愛するというか、そういったものに結びつけていただくべく私どもが民間と一緒に、相ともに相談しながらやっていかなきゃならないということを重点に考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

その線でしっかり連携とって、今以上にやっぱり活発に議論をしていてもらいたいと思います。国、県との連携について聞きますけど、ソフト面での支援というのは受けられるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長（吉岡正史君）

ソフト面での広い意味でのものであると思っております。例えば国というのは私ども糸魚川だけではなく、ジオパークというものはなかなか国民にはまだなじみが薄いわけです。そういったものを例えば中央の省庁が私どもへの支援のために、広くジオパークについて宣伝をしていただくと。

それから県レベルでは、直接というのはなかなか少ないかもしれませんが、例えばの例では糸魚川市内の道路にジオパークに関する標識、あるいは宣伝看板というものを立てるといった機会があ

るわけですが、現実にも今、平岩地域にそういうものを立てていただいております。それから私も市が進めていく看板、パンフレット、あるいはいろいろな音声ガイドといったものについて、県が国の一部の交付金も使いながらいろいろ資金面で市を応援してくれてると。こんな資金がありますよ、こんな資金がありますよというような情報をいただいておりますのが現実でございます。そういった面で、国、県とも協力していただいているというのが現実でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

いろいろな補助金制度があると思うんですよ。今言うのはいろいろ事業推進の中でも、補助申請したりするもんじやない形の中の支援ですよ。いろいろな補助金制度についてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田総務企画部長。〔総務企画部長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。特に国、県の支援の中で、ソフトはだめよというのはないわけでございます。いろいろな補助事業に適合するものであればいいわけでありまして、今のところ国・県の補助、これだというのはなかなかないというのが実態であります。

ただ、県の地域振興局から、地域振興局の予算の中でソフトを含めまして、音声ガイドブック等も含めまして、そういうところの支援をちょうだいをしてるといってござります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子建設課長。〔建設課長 金子晴彦君登壇〕

○建設課長（金子晴彦君）

直接のジオパークの補助というわけではないんですけども、ご存じのように今、地域活力基盤創造交付金というのが、道路の一般財源化に伴って新たな制度として発生したわけですけども、そういう中で道路に絡めたという形で、この効果促進事業というのを、今、新潟県全体で取り組んでおるわけですけども、そういう中で全体の交付金の2割ぐらいはこういうものに使える。そういう中で、例えば観光案内看板とか、それからジオのマップとかというの、こういう中でできるという

制度で、今、国の方で非常に興味があるという中で、いろんなジオの整備がこれにつながっていくんじゃないかということで、特に高田の河川国道事務所など詳しく説明に来ていただいて、そういうのを今後利用していければなと思っております。

〔議長〕と呼ぶものあり 1

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えさせていただきます。

糸魚川市といたしましては、今そのような動きをしておるわけですが、ご存じのように、まだスタートして間もないということもございます、所管の担当の省庁というのが、なかなかまだ決まってないという状況でもあります。関係省庁が8つあるわけございまして、その中でジオパークの有意性というのは、非常に理解をしたということをお願いしております。

しかし、そういう中←で具体的に事業というのは、なかなか起きてないのも実情でございます、その辺も全体的なやはり日本ジオパークネットワークとして、また日本ジオパーク委員会として、お願いをしていきたいということで進めさせていただきますが、実際まで本当に具体的にこのジオパーク、またジオパークツーリズムに対しての直接の支援事業というのはまだございません。

が、しかし、自然を大切にしたり、自然を保存したり、地域振興という中においては、既存の事業の中でも取り組めるものもあると思うわけでございますので、その辺をやはりこのジオ事業ということで挙げることによって、またはそういったことで優先的な順位が高まる方向にいくようお願いをさせていただきますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔議長〕と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

具体的に聞きますけど、内閣府の地方の元気再生事業というのがありますよね。これについては糸魚川市はどうなんでしょうか。

〔議長〕と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長（吉岡正史君）



お答えします。

今の内閣府の元気活力の事業なんですけども、それ自身についてはまだ活用はしておりません。ただ、先ほど建設課の金子課長から答弁もありましたし、それから今現在、経済対策という形で交付金も割り当てられております。そういった有利な交付金などを使って優先的に、今間に合うものから整備をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

地方の元気再生事業には手を挙げてないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長（吉岡正史君）

今ほどお答えしましたように、まだそれには手を挙げておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

糸魚川市ジオパーク協議会の方で、手を挙げているんじゃないでしょうか。確認してもらえますか。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

暫時休憩をいたします。

再開を11時25分といたします。

(午前 11時15分 休憩)

(午前 11時25分 開議)

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長（吉岡正史君）

先ほどの伊藤議員さんの地方の元気再生事業の件ですが、ちょっと認識不足でおわびを申し上げまして訂正をさせていただきます。

糸魚川ジオパーク協議会の中にプロジェクト推進委員会というものを設けまして、この4月にこの地方の元気再生事業につきまして申請をしているというような段階でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

しっかり連携をとって、認定になれば生かしていただきたいと思います。

ハード面の整備についてですが、やはり国や県の公共事業の導入というのが、環境整備に非常に必要になってくると思うんですが、その点での協議というのはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子商工観光課長。〔商工観光課長 金子格彦君登壇〕

○商工観光課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

ハード面ということではただいま考えているのは、観光誘導案内看板というようなものを予算を計上して考えております。この中で現在のものについては、特に国県補助はございませんけれども、先ほど建設課長が申し上げましたような形で、そういう整備について国、県の補助金が、あるいは交付金を活用できるものについて今後研究をして、対応してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

治山治水、砂防、道路整備という方の公共事業についてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子建設課長。〔建設課長 金子晴彦君登壇〕

○建設課長（金子晴彦君）

基本的には道路整備なり、治山、砂防で、直接ジオサイトという形での整備ではないにしろ、基本的にはいるいる、そういうハードは目的をそれぞれ守るため、それとアクセスするために必要なものと考えておりますので、要するにソフトでどういうことがしたい、どういう目的でここへ行きたいということを見据えた中で、それに足りないものを、今後、国・県、また市でできるものに分けた中で計画して、順次できるものを取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田総務企画部長。〔総務企画部長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

ジオパーク関連のハード整備につきましては、今のところ財源的にはできるだけ合併特例債等の優良債を使うという方向で今やってる最中ということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

ちょっと意味が違うんですが、例えば国交省の高田の所長なんかは、ハード面の整備で必要なも

のはどんどん協力するよという話をされてるというのも聞いております。例えば県の課長クラスと話していると、どうも自分の担当するところでやれることがあるはずなんだけど、協議が上がってこないというような声もあるので、先ほどの下部団体といいますか、商工会議所が中心になるのかもしれませんが、協議会との関連をうまく進めて、総合的に事業を進めてもらいたいと思います。終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。